

秋田工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	社会と文化（４M）	
科目基礎情報							
科目番号		0065		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		一般教科（人文科学系）		対象学年	4		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		参考書：金森久雄編『日本経済読本』東洋経済新報社、平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店　／　その他：自製プリントの配布					
担当教員		長井 栄二					
到達目標							
１．戦後日本の地域格差問題の概要がわかる。 ２．戦後の欧州統合過程の概要がわかる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		戦後日本の地域格差問題を、資料に即して論述できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できない。	
評価項目2		戦後の欧州統合過程の特質について、具体的に論述できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
(A)人類の幸福 A-1							
教育方法等							
概要		戦後の日本および現代ヨーロッパにおける地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代世界における身近な社会の問題を相対的かつ客観的に捉え、自ら思考し主体的に行動していくために必要な基礎視角を身に付ける。					
授業の進め方・方法		講義形式。授業中には板書を書き写すだけでなく、口頭説明のメモをとること。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。					
注意点		合格点は60点である。前期総合成績は、中間・期末の試験結果で評価する。 授業を受ける前：現在の日本や世界の諸地域の情勢について、複数のメディアを通じて、日常的に情報に触れておくこと。 授業を受けた後：授業の論理構成を押さえ、その主旨を明確につかまえておくこと。 なおこの科目は、3年次までの社会科科目の内容を理解していることを前提とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	戦後日本の経済成長		一国経済規模の成長について学ぶ。		
		3週	戦後日本の地域格差問題		経済成長と地域格差の関係について学ぶ。		
		4週	現代日本の空間構造		現代日本の空間構造の特質について学ぶ。		
		5週	地域格差をめぐる諸問題		社会問題としての地域問題の性格がわかる。		
		6週	戦後日本の地域政策		政策手法の特質について学ぶ。		
		7週	到達度試験（前期中間）		上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。		
		8週	試験の解説と解答		到達度試験の解説と解答		
	2ndQ	9週	大戦直後の欧州		大戦直後の欧州統合の試みについて学ぶ。		
		10週	欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）の成立		欧州統合の画期性がわかる。		
		11週	欧州経済共同体と欧州原子力共同体		統合分野の拡大と統合組織の変化について学ぶ。		
		12週	「均衡の時代」		統合の漸進性がわかる。		
		13週	欧州連合（EU）の成立		欧州連合の性格について学ぶ。		
		14週	欧州統合の現状		欧州統合の到達点について学ぶ。		
		15週	到達度試験（前期末）		上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。		
		16週	試験の解説と解答		到達度試験の解説と解答、および授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	2	前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16	

分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

評価割合

	到達度試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0